

さんかくふちにしんにじゅうきょう
三角縁二神二獣鏡
 (名称は調査報告書による)
 (南棺) (直径21.4cm)



獣像

神像

鏡の縁の断面が三角形で、神像と獣像が対に表現されています。霊力のある神や獣の姿から、不老長寿の願いが込められた鏡であると考えられます。同じ鋳型から作られた鏡が、岡山県備前市鶴山丸山古墳から出土しています。

へんけいしじゅうきょう
変形四獣鏡
 (南棺) (直径9.5cm)



変形した獣像が4体表現された鏡。

ねじもんきょう
掬文鏡
 (北棺) (直径10.2cm)



獣像が変形し、ねじれた文様となった鏡。絹布とみられる織物が付着しています。

さんようかんとう た ち
三葉環頭大刀 (南棺) (長さ約1.2m)



柄頭(つかがしら)が丸く、その内部が三葉形となっています。(鉄製)

やりがんな
鉋
 (南棺) (長さ13.8cm)



糸が巻かれた痕跡

てつそく
鉄鍬
 (南棺)



(左から2番目長さ8.7cm)

ほうすいしゃがたせきせいひん
紡錘車形石製品
 (北棺) (直径5.85cm)

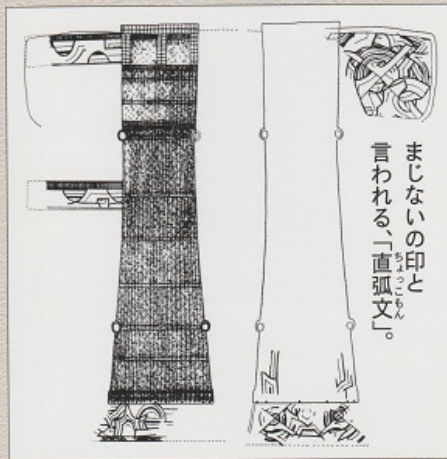


糸をつむぐ道具を模し、石で作られたもの。(緑色凝灰岩製)

ゆぎ
鞆 (南棺)



矢を入れる容器で、^{やじり}鐵を上に^{やじり}に向けて入れます。矢を入れる部分は織物で、その下は木製です。全体に漆が塗られています。木質は腐ってなくなり、漆だけが残っている状態だったので、ポリエステルで固め、土ごと取り上げました。



靫想定復元図(『会津若松史別巻1』より)

まがたま
勾玉
 (南棺) (長さ2.7cm)



硬玉(ヒスイ)製

ガラス小玉 (南棺)



(径3mm) (径5~7.5mm)

会津大塚山古墳
 -発掘調査から今日までの歩み-

- 昭和39年5月 発掘調査実施
- 昭和39年9月 報告書『会津若松史 別巻1』刊行
- 昭和47年5月26日 「大塚山古墳」国史跡指定
- 昭和52年6月11日 「会津大塚山古墳出土品」国重要文化財指定
- 昭和63年4月~5月 再測量調査(全長114mであることが判明)

写真提供 表紙空中写真及び出土品……福島県立博物館
 発掘調査記録……会津若松市立会津図書館

会津若松市教育委員会文化課 TEL0242-39-1305

